


様式13

会派視察研修計画書

令和元年11月1日

碧南市議会議長 様

会派名

代表者名 林 田 要  印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	林田 要、生田綱夫、山中謙治、小林晃三、鈴木良和、鈴木清貴、杉浦哲也、沓名 宏		
日 時	令和元年11月18（月）～令和元年11月20日（水）		
視 察 先	1 静岡市 2 東京都荒川区 3 東京都港区		
研 修 内 容	1 東静岡アート&スポーツ/ヒロバ について 2 荒川区民総幸福度 について 3 ドローンの活用 について		
日 程	11月18日（月）午後1時から午後2時30分 静岡市 11月19日（火）午前10時00分から午前11時30分 東京都荒川区 11月20日（水）午前10時から11時30分 DJI JAPAN 株式会社		
交 通 手 段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機)	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

会派視察研修報告書

令和元年12月20日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 林田 要 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 8名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	沓名 宏、杉浦哲也、林田 要、鈴木清貴、 小林晃三、生田綱夫、鈴木良和、山中謙治
日時	令和元年11月18日（月）～令和元年11月20日（水）
視察先	静岡県 静岡市 東京都 荒川区 港区【DJI JAPAN（株）】
研修内容	静岡市 「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」について視察研修 荒川区 「荒川区民総幸福度」について視察研修 港区 「ドローンの活用」について視察研修
日程	11月18日（月） 静岡市 11月19日（火） 荒川区 11月20日（水） 港区
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

令和元年12月11日

議員氏名 沓名 宏

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和元年11月20日（水）
- 2 視察先 東京都
- 3 視察の種類 新政会会派視察
- 4 視察の成果等

自分は、所用があったので最終日だけ視察に伺った。東京の品川駅近くのDJI JAPAN（株）という民間で「ドローンの活用について」の視察である。本社は、中国にありドローンに関しては世界のトップシェアをもっている。まだ新しい会社であるが、説明をして頂いた方からは、5年間の時を1年で過ごしている分野だと言って見えるぐらい進化が進んでいるようだ。確かにドローンだけを拝見したが、数年前のものと比べるとはつきり自分でもわかった。今後ドローンは、色々な分野で活躍するであろうと認識した。

最後に、民間の会社であったが丁寧に説明をしていただき感謝いたしました。

視察研修成果報告書

令和元年 12月 18日

議員氏名 杉浦 哲也

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和元年 11月18日（月）～ 令和元年 11月20日（水）
- 2 視察先 静岡県静岡市・東京都荒川区・東京都品川区（DJI株）
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

*静岡市「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」について

2017年5月13日、JR東静岡駅北口にオープンした多目的広場です。スケートボード、BMX、インラインスケート、一輪車などのローラースポーツが楽しめる「ローラースポーツパーク」や、訪れた方が思い思いの時間を過ごすことができる「芝生広場」で構成され、隣接に105台の有料駐車場を備えています。また、国道一号線に面し、JR東静岡駅北口からすぐの場所にあるため、交通の利便性が高いのも特徴です。

本施設は、第3次静岡市総合計画で「文化・スポーツの殿堂」として位置付けた「東静岡駅北口市有地」の第1段階整備であり、世代を超えた多様な人々の交流の場とすることで、静岡市の存在感を高めるとともに、新たに訪れる人の増加に繋げるための施設である。面積・費用等の詳細は以下の通りです。

- ・全体面積＝約24,000㎡（ローラースポーツパーク7,000㎡・芝生広場11,580㎡・駐車場3,250㎡・緩衝帯等2,170㎡）
- ・工事費＝150,000千円（全て自主財源）
- ・年間運営費＝56,340千円
- ・運営主体＝「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」実行委員会
- ・管理運営業務受託者＝株式会社H. L. N. A（東京）
（実行委員会が株式会社H. L. N. Aに管理委託をお願いしている。）

*荒川区「荒川区民総幸福度」について

荒川区が「荒川区民総幸福度（GAH）」の向上に取り組むきっかけとなったのは、平成16年11月に現在の区長である西川太一郎氏が就任直後から提唱した「区政は区民を幸せにするシステムである」という区のドメイン（事業領域）を全国の自治体ではじめて設定した事によるものである。

西川区長は、これまでその国の豊かさは、主に経済的に豊かであるかどうかで計られてきた。しかし経済的に豊かであっても、人々は幸せと感じられず、本当の意味で豊か

な国と言えなかったのではないかとしている。このため荒川区では20年先を見越した幸せを実感できる指標をつくり、区民の幸福実感の向上を目指すことになった。

その後、平成17年11月のプロジェクトチームを結成に続き、平成19年3月に「幸福実感都市あらかわ」を掲げた基本構想と基本計画を策定、平成21年10月には「荒川区自治総合研究所」を設立した。この研究所では哲学者、心理学者、経済学者、宗教学者などをメンバーとする荒川区民総幸福度（GAH）研究プロジェクトが開始された。

荒川区が目指す幸福のイメージとして「自分自身の幸福」「身近な人の幸福」「地域の幸福」の3つがあると考えている。そしてこの幸福が合わさって荒川区民の幸福が形づくられるとしている。

荒川区民総幸福度（GAH）の内容では、①健康・福祉、②子育て・教育、③産業、④環境、⑤文化、⑥安全・安心6つの指標からなっており、各指標から幸福度を分析する上での具体的な項目が設定されている。

*DJI JAPAN (株) 「ドローンの活用」について

世界最大の民生用ドローンメーカーであるDJIは、創業から約10年という短期間でドローン市場の7割を超える世界シェアを持つ会社である。本社は、中国内においても圧倒的スピードと勢いで経済成長を続ける広東省深セン市にあり、その中でも特に勢いがある会社として注目を集めているようです。

担当の方から、ドローン活用についてお話を聞かせていただきました。その中で、災害時において、状況を把握する必要がある時などは、人の目で確認できない場所へドローンを飛ばし撮影し、その映像を即時に配信・記録をする事により、速やかに初期対応が可能となるのではないかとという事でした。また、農産物分野では、広大な農地にドローンを使用して農薬を低コストで散布できるそうです。

今後については、今までのドローンビジネスは主に「撮影」がメインでしたが、これからは、ドローンを使って何ができるかという「ソリューション」の時代が来るといふ事。さらに、ドローンの可能性は広がると共に、より深い知識と専門的な技術が必要になってくるとのことでした。

視察研修成果報告書

令和元年12月10日

議員氏名 林田 要 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和元年11月18日（月）～令和元年11月20日（水）
- 2 視察先 静岡県静岡市、東京都荒川区、品川区
- 3 視察の種類 会派行政視察研修
- 4 視察の成果等

11月18日（月）

静岡県静岡市「東静岡アートアンドスポーツヒロバ」について

東静岡アートアンドスポーツヒロバは、JR東静岡駅を北口に降りて直ぐにあり、管理棟を中心にローラースポーツパーク、芝生広場、駐車場が一体となったエリアである。リーディングプロジェクトとして「まちは劇場」を掲げ、第3次静岡市総合計画において、文化・スポーツの殿堂として位置づけられた東静岡駅北口市有地の第一段階整備であり、目的として「世代を超えた多様な人々の交流の場とすることで、静岡市の存在感を高め、新たに訪れる人々の増加につなげる」としている。運営主体は東静岡アートアンドスポーツヒロバ実行委員会で、市職員、民間有識者で組織されている。また運営業務は株式会社HLNA（本社東京）に委託している。今回の現地視察研修では、静岡市職員、並びにHLNA担当者から直接お話を伺うことができた。

主な事業としては、ローラーパークにおけるスケートボードスクール、インラインスケートスクールなどのスクール業務があり、ほかにも陸上レッスンやBMXといった多様なニーズの受け入れも可能であるとのこと。実際に当日現地ではスケートボードに興ずる親子やソロ練習している大人が見られた。親子に話しかけると、この事業で駅前が整備されて、無料開放日にスケートボードを体験したことから子供たちも興味を持ち始めたとのことであった。またHLNA担当者の話では、全天候型の練習場はまだ全国でも数か所であり、全国大会を主催することが多いスケートボード協会も雨天中止の可能性がない全天候型の会場での大会開催に対してはPRなどのバックアップもしやすいため、より多くの参加者を見込めるとのことであった。実際に視察研修の前月に開催されたジュニア向けの大会には、全国から数百名の参加者があり、中にはワンボックスで一週間ほど寝泊まりしながら現地練習を兼ねて前泊する親子もいたそうである。また、全国大会の開催によって施設のPRとなり、同時に多くの人々が静岡県に訪れる機会となるため、積極的に大会開催を企図することのメリットもご教示いただいた。

碧南市におけるスケートボードパーク事業は、ニュースポーツの普及や促進による市民の健康増進といった目的に加え、副次的に周辺地域からの碧南市への訪問を考えてい

るが、今回の視察でご教示いただいたように、大会開催をきっかけとした全国的なPRも考えていくことが、結果として広く市民の福祉にかなうものであると考えるところである。

11月19日(火)

東京都荒川区「荒川区民総幸福度(GAH)」について

平成16年、現荒川区長である西川氏が区長就任後に「区政は区民を幸せにするシステムである」といったスローガンを掲げ、平成21年には「荒川区自治総合研究所」を設立した。当研究所は、荒川区の課題について多角的、かつ中長期的な視点に立って調査研究を行い、区に政策提言を行う組織であり、幸福度を基礎とした課題に沿ったテーマを定め、テーマごとに研究プロジェクトを立ち上げ、報告書を作成して区に提言している。一例として、子供の貧困問題、親亡き後の支援、地域力、子供の健全育成などがある。幸福度を指標化するにあたり、不幸を減らすことを重要な視点として捉えている。荒川区基本構想に定める6つの都市像に沿って指標化しており、合計46の指標を掲げられている。これらを職員の理念と示して、実際に職務遂行にあたっての指標となっている。また区内での様々な活動の核となり活躍される区民をGAH推進リーダーとして委嘱し、定期的な会議を通じて区民総幸福度の向上につなげている。

碧南市においては、禰宜田市長就任以来、市民満足度といった指標を掲げているが、全職員に浸透しているかは疑問が残る点が散見される。市長の諮問会議体としての満足度研究所の設立といったアイデアも議会から提言するものではないが、庁舎から独立した機関としての存在も有用ではないかと考えるものである。

11月20日(水)

東京都品川区「DJI JAPAN ドローンの自治体活用」について

DJIは中国深川に本社をおく世界ドローンシェアトップの企業であり、当日は日本法人オフィスにおいてドローンの自治体活用について説明いただいた。ドローンは、ここ数年で急激にその性能を向上しているのと同時に利用者が増加しており、用途も多岐にわたるが、DJIにおいてはユーザー層の拡充に努めており、現時点では産業用ドローンに対して積極的にコミットするつもりはないとのことであった。理由としては、ドローンの活用は様々なサービスを提供している事業者自らがニーズを発信する必要があり、ドローンメーカーがあれもこれもとリソースを分散することはリスクであるとのことであった。一例として宅配便のドローン活用が一部で取りざたされるが、すでにインフラが整っているものを強引にドローンにリプレースすることのメリットは少なく、2019年時点では個別のユーザーニーズを喚起し、ドローンがホビーからツールへと転換する過渡期にあると考えているからである。自治体もユーザーと見立てると、具体的な使用方法がメーカーから示されることを待つのではなく、実際に使用可能な状況が想定される中で、どのような機種を選別するかを判断する発想が必要である。

碧南市においては、高浜市の企業と被災時のドローン活用の協定をしたところであり、積極的な日常の活用の場面の想定をすることも必要であろう。ドローンが何をしてくれるか、ではなく、ドローンで何をするかといった発想の転換でより合理的なツールの活用となればと考えるものである。

会派視察研修報告書

令和元年 12月 2日

議員氏名 鈴木清貴

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

1 期間 令和元年11月18日（月）～令和元年11月20日（水）

2 視察先 ①静岡県静岡市

②東京都荒川区

③東京都港区 DJI JAPAN(株)品川オフィス

3 視察の種類 会派行政視察

4 視察の成果等

① 静岡市調査事項：「東静岡アート&スポーツ/ヒロバについて」

コンセプト：「若者が楽しめる町づくり」

行政財産（多目的アリーナ建設予定地）の目的外使用許可をし、「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」実行委員会（市職員・民間・有識者で組織）を運営主体として管理運営を委託した。管理運營業務受託者：(株)H.L.N.A(東京)

工事費：150,000千円

運営費：56,340千円（平成31年度

・内テント・セクション等のリース料30,000千円）

面積：全体 約24,000㎡

・ローラースポーツパーク 約7,000㎡

（テント内 約1,200㎡）

・その他 芝生広場、駐車場、緩衝帯等

テントハウス建設費：40,000千円

営業時間：11:00～21:00

※18歳以下はヘルメット着用義務。小学生以下は保護者同伴。

供用期間：2017年5月～2021年7月（約4年）

静岡市と静岡市の合併に伴い中間地になる東静岡駅周辺に行政機関の移転を計画したが、計画がまとまらず駅前の一等地が空き地となり、利活用として「アート&スポーツ/ヒロバ」を計画しローラスポーツパークを整備した。テント内にもセクションを整備したことにより全天候型の競技場となり全国大会が開催できるようになり、全国から競技者が集まってきている。若者が楽しめる町づくりは大成功と思われる。

マイナースポーツは競技人口が少ないので、代表になれる可能性が大である。当市においても、現在ビーチコートやスケートボードパークを整備している。種々の応援態勢を整えて全国大会を誘致して市民にも関心と支援を求めることが、町の活性化につながる事となるので、応援したい。

② 東京都荒川区調査事項：荒川区民総幸福度について

荒川区の概要 面積：10.16 km 人口：216,886人（令和元年6月1日現在）

大規模な再開発などにより、ファミリー層を中心に21年連続人口増加。平成30年の住宅地の地価上昇率東京都内第1～3位独占。

平成27年度の共働き子育てしやすい街ランキング全国1位

取り組み：平成16年11月 西川区長が就任直後に『区政は区民を幸せにするシステムである』(事業領域)というドメインを設定

平成17年11月 荒川区民総幸福度(GAH)を提唱

平成21年10月 荒川区自治総合研究所を設立

平成25年6月 全国の基礎自治体有志による『幸せリーグ』が発足

平成25年10月 GAH指標を用いた区民アンケート調査を実施(第1回)

平成30年10月 GAHアンケート調査を実施(第6回)(対象者4,000人)

基本構想：目指すのは「幸福実感都市あらかわ」(平成19年)

GAHの2つの側面

指標化：区民の幸福度を測る指標を作成し、政策・施策に活用する。

運動：地域力＝幸福度向上の原動力 区に関わるあらゆる人や団体が、地域を思い、地域のために行動していく。

GAH指標の体系：荒川区基本構想に定める6つの都市像ごとに指標化

①生涯健康都市(健康・福祉指標) ②子育て教育都市(子育て・教育指標)

③産業革新都市(産業指標) ④環境先進都市(環境指標) ⑤文化創造都市(文化指標) ⑥安全安心都市(安全・安心指標)

区民アンケート調査結果(5年間平均)：子育て・教育分野の実感度が最も高い

①子育て・教育(4.23)②健康・福祉(3.32)③環境(3.19)④産業(2.94)⑤安全・安心(2.69)⑥文化(2.51)

女性(3.63)のほうが幸福実感度は高い 男性(3.44)

世代別 30代(3.75)の幸福実感度が最も高い 20代以下(3.47)40代(3.53)
50代(3.46)60代(3.53)70代(3.49)80代以降(3.63)

世帯構成別 三世帯家族(3.73)の幸福実感度が最も高い

一人暮らし(3.28)夫婦のみ(3.64)二世帯家族(3.62)

その他(3.33)

GAH指標の意味や効果

- ・課題発見のツールとして
- ・政策の優先順位の判断
- ・政策の総合化
- ・アウトプット(結果)中心からアウトカム(成果)ベースに
- ・地域への関心度が高まる

○地域の人と交流できていると実感している人ほど幸福度が高い。

○自分の役割があると実感している人ほど幸福度が高い。

幸福度という多様性のもの見える化に取り組み行政に生かそうとする試みに敬意を感じる。区民の満足度の向上に取り組む手法は色々考えられる。碧南市においての禰宜田市長の行っている直接市民の意見を聞くC・S地区ミーティングも一つの有力な手法と思われる。首長として市民の幸福のために施策を執行していることはどの首長も同じであり、議会人はその方向性と手段・予算が適正であるかどうかを審査する立場であり、多様性を理解して柔軟に対応することが必要と思われる。

③DJI JAPAN(株)調査事項：ドローンの活用について

DJI HQ：中国深圳

従業員数 全世界 12,000人 日本国内 200人

ドローンの自治体での活用方法 災害対策、災害状況の確認、施設の点検ほか消防、水防、警備など活用の場は広がっていくと思われる。

人口規制(4,000人/km)、高度規制(150m以下)などの航空法の規制や国土交通省の認可が必要な場面もあり、行政職員が直に取り扱うより外部委託した方が良さそうである。

今後は3次元地図がドローンの活躍の場でのキーとなると思われるが、すでに一部民間企業(ゼンリン)や国でも進めているとのことであり、人が乗れるドロ

ーン（空飛ぶ車など）や運輸、人が行けない、入れない危険な場所や軍事面までもドローンの利活用が進むと想像される。

碧南市においても災害対策の面からも早急にドローンの活用を検討されることを要望する。

以上を持って視察を終了した。

視察研修成果報告書

令和元年 11月28日

議員氏名 小林 晃三

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和元年 11月18日（月）～令和元年 11月20日（水）
- 2 視察先 静岡県静岡市 東静岡アート&スポーツ
東京都荒川区 荒川区役所
東京都品川区 DJI JAPAN 株式会社
- 3 視察の種類 新政会 会派視察研修
- 4 視察の成果等

11月18日（月） 静岡県静岡市 東静岡市アート&スポーツ／ヒロバ

施設概要：旧静岡市と旧清水市の間に位置し、施設全体の面積は24,000㎡で工事費は1億5千万円、運営費は年間約5,600万円。東静岡駅のJR車両基地跡地にアート広場、駐車場、ローラースケートパークを有する。

ローラースポーツパークの面積は7,000㎡で屋内競技用に1,200㎡のテントハウスも有り、雨天でも対応可能となっている。

一輪車、BMX、インラインスケート、スケートボード等の競技種目に対応できる。

運営は東静岡アート&スポーツ／ヒロバ実行委員会に管理運営を委託し、株式会社H.L.N.Aが運營業務を行っている。

所感：東静岡駅の目の前という立地で、大きな大会や各種イベントを行うにはこの上ないような好条件であり、実際に静岡以外からの来場者も多数いらっしやっているとのことでした。立地条件が良いとはいえ、騒音の苦情も少なからずあるようでした。本市に計画しているボードパークとは規模や立地条件などに大きな違いがあり単純に比較はできないが、現状では東京オリンピックに向け様々な自治体が注目している事業であるので、碧南市の強みを生かした運営をしていくべきだと感じた。また、オリンピック後も持続可能な施設であるように望みます。

11月19日(火) 東京都荒川区 荒川区役所 「荒川区民総幸福度について」

荒川区概要：人口216,000人 面積 10km² 再開発により、人口は増加傾向

平成16年に就任した区長により区民の幸福度実感向上に向けた取り組みとして、「区政は区民を幸せにするシステムである」というスローガンを設定し、平成17年に区民総幸福度(GAH)を提唱。

平成21年に公益財団法人荒川区自治総合研究所を設立。

- ① 荒川区の課題等について多角的かつ中長期的な視点に立って調査研究を行い、区に対して政策提言を行う。
- ② 荒川区民幸福度研究を基礎として、区の課題に沿ったテーマを定め、テーマごとに研究プロジェクトを立ち上げ、報告書を作成し区に提言を行う。

GAHの役割

- ① 区民の幸福度を測る指数を作成し、政策、施策に活用する。
- ② 区に関わる人や団体が、地域のために行動し地域力を高めていく。

荒川区の基本計画である「6つの都市像」を基本に6つの分野ごとに幸福度指数を設定して年一回アンケートを行っている。

所感：幸福度は人によって違うので、物質的な幸福、心情的な幸福など、一律に決めてしまえるものではないと思うが、それでも、全体的な政策立案には役立つと考える。荒川区のように都会で人口流入流出の多い都市と、碧南市を比べるものではないが、市民が求める幸福を常に持続可能な範囲で追求していきたい。

11月20日(水) 東京都品川区 JDI JAPAN 「ドローンの活用について」

DJI JAPAN概要：2016年創業(本社中国広東省)

2009年にドローンの飛行を制御するフライトコントロールシステムをリリース。

所感：ドローンの技術は日進月歩であり、現在では様々な分野で利用されているが、現状では関係法令の整備や飛行禁止区域など、一般にはまだ浸透していないように感じます。碧南市でも農業分野での農薬散布、防災分野での河川や堤防決壊の早期発見など様々な用途が考えられる、今後技術が進めば物流などにも進出が期待されているところだが、法整備はもちろんモラルやルール作りなど課題も多いと感じました。

視察研修報告書

令和元年12月20日

議員氏名 生田 綱夫

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和元年11月18日（月）～令和元年12月20日（水）
- 2 視察先 静岡県静岡市 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ
東京都荒川区 荒川区役所
東京都港区港南 DJI JAPAN 株式会社
- 3 視察の種類 会派視察研修 新政会
- 4 視察の成果等

研修内容

- 11月18日（月） 静岡県静岡市 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ
ローラースポーツパーク施設見学研修
- 11月19日（火） 東京都荒川区 荒川区役所
荒川区民総幸福度の概要及び経緯について
- 11月20日（水） 東京都港区港南 DJI JAPAN 株式会社
ドローンの活用について

研修所感

- 11月18日（月） 静岡県静岡市 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ
2017年5月オープンした、敷地面積24000㎡内にローラースポーツパーク、芝生広場、駐車場兼イベントスペースで構成されている。
碧南市のスケートボード場建設に合わせて、実際の国際大会の実施可能な屋内スケートボード場を有する施設に、施設概要及び建設費等を伺い、運営状況や今後の方

針などを確認。

碧南市とは違い屋内にある事により、全国大会の誘致が可能となり、屋外では雨天時の実施が出来ないので、不可能であるとのことでした。

この施設は静岡市が新規開発した駅前の有効利用を目指し一時的に設置した施設であり、永久的にこの場所に設置するものではないとの事でした。

有人管理で、運営は民間委託をしてローラーパークであるため、BMX、スケートボード、インラインスケートのスクールも実施。

有効利用で、最初から民間委託を予定していたため屋内用大型テント式の建物ではあるものの、広さ的には臨海公園のドームと同等の広さを持っていながら、値段は1/10の値段でリース契約でテントを立てた事が、費用面でも非常に低コストで実施されていたのが今後の当市に於いての課題だと感じられた。

11月19日(火) 東京都荒川区役所

荒川区民総幸福度について

荒川区役所 公益財団法人 荒川区自治総合研究所 所長長田氏に講師

荒川区民総幸福度(GAH)の取り組みについて説明を受ける

荒川区の外部団体として荒川区の課題を多角的になおかつ中長期的な視点に立って調査研究をし政策提言を行い、区の課題に沿ったテーマを定め、研究プロジェクトを立上げ報告書の作成をし区に提言する部門である。

各分野別に指標を作り区民へのアンケートにより毎年の幸福実感を計測する事により実績を上げている。

結果平成27年度には共働き子育てしやすい街ランキング全国1位を獲得

11月20日(水) DJI JAPAN(株)

ドローンの活用について

現代社会に於いてドローンの利用方法及び価値が急激な伸びを見せている中で今後行政による利用方法があるのかの研修。

イベントとのプロモーションビデオや災害時の緊急状況調査には特に有効利用できる感があり、今後の調査研究に値する可能性が十分高いと感じられた。

最近では金額も低価格のものや小型の物も出ており、色んな用途に使用されるべきである、そして、カメラの精度を上げブレ防止装置や画素数の拡大により非常に期待感の高まりを感じられたので、行政として消防署とかでは特に期待される所であると感じた。

視察研修成果報告書

令和元年12月3日

議員氏名 鈴木良和

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和元年11月18日（月）～令和元年11月20日（水）
- 2 視察先 静岡県静岡市「東静岡アート&スポーツ/ヒロバについて」
東京都荒川区「荒川区民総幸福度について」
東京都品川区・DJI JAPAN 株式会社「ドローンの活用について」
- 3 視察の種類 新政会 会派視察
- 4 視察の成果等

11月18日（月）東静岡アート&スポーツ/ヒロバについて視察しました。

この施設はJR東静岡駅北口前に立地し、面積はローラースポーツパーク約7000㎡（テント内約1200㎡）、芝生広場約11580㎡、駐車場約3250㎡、全体としては約24000㎡です。施設内の工事費は150000千円で運営費は平成31年度としてリース料3000万円、静岡市負担金2600万円となっています。

運営費には駐車場使用料、ローラースポーツパーク会員料金、レンタル料金等で運営している。この運営の主体は「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」実行委員会で管理運営、業務受託者は株式会社HLNAが行っている。

2020年3月完成予定、碧南市スケートボード場の運営に当たっては年間4回ほどの大会を開催し、持続可能な運営を築いてほしいと考えます。市職員さんのさらなるレベルアップを期待します。

11月19日（火）荒川区民総幸福度について教えて頂きました。

区民の幸福実感向上に向けた荒川区の取り組みは平成16年に西川区長が就任直後に「区政は区民を幸せにするシステムである」（事業領域）というドメインを設定した。これは基礎自治体の使命は住民の「幸せの実感」をいかに向上させるかである。

荒川区基本構想に定める6つの都市像があり、それは生涯健康都市・子育て教育都市・産業革新都市・環境先進都市・文化創造都市・安全安心都市です。

碧南市にも言えますが、頭でっかちにならず行動で区民・市民を引っ張っていくことができないか。更なる共助意識が大切と考えます。お祭り行事を例にするならば、よそ者、バカ者、若者が参加しやすいシステムを考え、共助の大切さを幼い時から植えつけていくことが必要ではないでしょうか。そこから幸福度アップにつながっていくのではないかと考える。

1 1月20日(水) DJI・JAPAN 株式会社 ドローンについてお聞きしました
中東のテロ組織 ISIL に利用されることを受けイラクとシリアの紛争地帯を GPS で飛行禁止空域にする措置を行った。DJI の民生用ドローンは安価で手に入ることから中東では非正規武装勢力による爆発物の投下などへの使用が報じられることも多いが軍用ドローンで先端技術を持つイスラエルでも正規軍の国防軍は DJI 製品を大量に導入しており暴動鎮圧目的で催涙弾の投下にも利用された。

しかしカルフォルニア州史上最悪の山火事の発生で州災害本部がアメリカ史上最大のドローンの緊急出動を行う事態となり活動に協力したドローンが使用された。

今後は農業への薬物散布、建設業界における橋脚の確認等産業活動には欠かせないものになると考える。碧南市においても災害時等利活用していかれることを祈念します。

最後に3日間にわたる関係各位感謝を申し上げ、視察報告といたします。

会派視察研修報告書

令和元年11月26日

議員氏名 山中 謙治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和元年11月18日（月）～令和元年11月20日（水）
- 2 視察先 静岡県 静岡市
東京都 荒川区、港区
- 3 視察の種類 会派視察研修（新政会）
- 4 視察の成果等

● 11月18日（月） 静岡市「東静岡アート&スポーツ/ヒロバについて」

平成22年平成の大合併にて、旧静岡市、清水市、由比町、蒲原町が合併して現在の静岡市となった。

静岡市においても人口減少が顕著であり、人口減少を抑えるため、平成29年5月に若者が楽しめる街づくりを目指して完成した。

現地は旧静岡市と旧清水市の間に位置し、JRの車両跡地を活用し、芝生広場・駐車場兼イベントスペース・ローラースケートパークを有している。

東静岡駅に直結しており、面積は24,000㎡で工事費1億5千万円、運営費年間5,600万円余である。

運営主体は「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」実行委員会（市職員・民間・有識者で組織）に管理運営を委託し、実際の管理運営業務は（株）H.L.N.A（民間）が受託している。

ローラースポーツパークの面積は約7,000㎡であり、屋内競技スペースとしてテントハウス（1,200㎡、工事費4,000万円）を有しており、全天候の対応が可能となっている。主な対象競技はスケートボード・BMX・インラインスケート・一輪車などであり、テントハウス内の設備は全国大会が開催可能な本格的設備であり、全国大会が開催されている。

会員になれば小学生以下は無料であり、中・高校生も安価に使用でき、開設依頼着実に使用者が増加している。

駐車場兼イベントスペースは東静岡駅に直結しており、ローラースポーツパークの利用者の駐車場だけでなく、通勤等一般市民の駐車場として、安価に対応している。

芝生広場はアート展示やイベント開催で広く利用されている。

●所見

静岡市は東静岡駅周辺を静岡市の副都心として位置づけ、行政財産（多目的アリーナ建設予定地）を目的外使用許可して実行委員会に無償提供している。

実行委員会は運営費5,600万円/年の中から、建設費の4年リース代3,000万円/年の返済及び管理運營業務受託者であるH. L. N. Aの委託料2,600万円/年の支払いをしている。

東京オリンピック終了後には4年リースも満了するため、現在地での継続はせず、本来の目的使用に移行する。

本来の使用目的前の期間の有効利用として活用されており、行政主体の事業でなく、安価で自由な運用がなされている。

本市でも有休市有地の活用方法として検討すべきと思われる。

●11月19日（火） 荒川区「荒川区民総幸福度について」

荒川区は面積10k㎡、人口216,000人余であり、大規模再開発により、ファミリー層を中心に21年連続人口増加している。

平成27年度には共稼ぎ子育てしやすい街ランキングで全国1位となった。

区民の幸福度実感向上に向けた荒川区の取り組みとして、平成16年就任した区長が「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメインを設定し、平成17年に荒川区民総幸福度（GAH）を提唱した。

平成21年には公益財団法人荒川区自治総合研究所を設立した。

荒川区自治総合研究所の役割は①荒川区の課題等について多角的かつ中長期的な視点に立って調査研究を行い、区に政策提言等を行う。②荒川区民幸福度研究を基礎として、区の課題に沿ったテーマを定め、そのテーマごとに研究プロジェクトを立ち上げ、報告書を作成して区に提言を行う。

GAHには2つの側面があり、①区民の幸福度を測る指数を作成し、政策・施策に活用する。②区にかかわる人や団体が、地域のために行動し地域力を高めていく。

そして、区民の幸福感と行政の施策を結びつける必要があり、荒川区の基本計画に定める「6つの都市像」をもとに6つの分野ごとに幸福度指数を設定して年1回アンケート（対象4,000人・回収率45%）を活用して施策に生かしている。

アンケート結果の分析をしていくと課題が見えてきており、災害時の絆・助け合いなど地域の人との繋がりが少ないことが幸福実感の低くさなっている。

地域の人と交流できていると実感している人及び地域で自分の役割があると実感している人ほど幸福度が高いという結果が出ている。

●所見

幸福度は単に物質の充実だけでなく、自分自身の役割や人との繋がりと内面的な面のほうが大きいように思う。

●11月20日（水） 港区 DJI JAPAN（株）「ドローンの活用について」

DJIは2006年に創業（本社：中国閩東省深圳）し、2009年初めての製品としてドローンの飛行を制御するフライトコントローラーシステムをリリースした。

その後も、高性能なドローンやフライトシステム、ドローンに搭載されたカメラの技術を生かした手持ちカメラなどの製品を世に送り出してきた。

DJIはプロ・アマユーザーのために革新的なカメラ技術を開発、製造しているグロー

バルリーダーで、飛行制御技術と手ぶれ補正の分野におけるエキスパートである。

営業拠点はアメリカ、ヨーロッパ、アジアまで拡大しており、世界100か国のユーザーが映画、広告、建設、消防、農業、その他の産業分野においてDJIの商品を愛用している。

DJIの日本支社であるDJI JAPAN (株)は2013年に設立され、ドローンの企画、研究、製造、販売及び輸入を手掛けており、従業員は200名である。海外においては一般向けドローンの需要が多いが、日本においては一般向け需要が少なく、産業分野での導入を進めている。

●所見

日本ではまだまだドローンの導入は進んでいないが、今後、災害、建設、農業、観光メディア等産業向け需要が増加していくと思われる。

しかし、国土面積も小さく、小型無人禁止法によりドローンの飛行区域が限られており、さらなる安全性の確保や許可申請の緩和が必要だと思われる。

本市においても災害支援協定により、一部ドローンを活用していく方向になってきているが、できる限り市内の他の業者と提携して、あらゆる分野での共同活動を模索していく必要があると考える。